

「知的わくわく磁性流体モデル」を大学と中学校が協働で実現し、
科学のわく組を動かせる次世代理系人材を育成する

令和 8 年度 第3日目 2026年8月5日（水）

バンドー神戸青少年科学館見学とSSH生徒研究発表会@神戸国際展示場

MM☆を進展させる夏の特別企画として、いつもの教室を飛び出し、神戸の地へ向かいました。科学の探究とは、教科書に書かれた知識をただ暗記することではありません。「日常のささいな違和感」や「好き」を出発点に、まだ誰も答えを知らない未知の領域へ、自らの問いを持って踏み出し、新しい価値を見いだす冒険です。

本プログラムも4年目を迎えましたが、これまで登壇いただいた研究者の先生方に共通しているのは、人生の転機に「心揺さぶられる出会い」があったということです。本企画は、昨年度の受講生が語った「3月のポスター発表の前に、みんなでポスター発表を経験したい」という声から生まれました。外の世界に出て、科学に熱中する同世代と触れ合うこと。私たちは「自らの『推し』をとことん探究する高校生たちの情熱」を肌で体感し、受講生一人ひとりの心にある探究の火を大きく育てほしいと願い、この企画をしました。



午前中に訪れたバンドー神戸青少年科学館は、リニューアルが行われたばかりでした。宇宙・物質・生命・環境など、多彩な体験型展示に挑戦することができます。私も自分自身が回転する大きな装置に入れていただき、「コリオリの力」の存在を体験してみました。知っている知識だし、外からの実験は行ったことがありますが、自分が空間の中に入って経験したのははじめてです。まっすぐ投げると右にズレる・・・だから左に投げないと目標には入らない・・・



当事者になると想像以上のズレ幅に驚きました。受講生の皆さんも。五感を通した発見があったのではないのでしょうか。



午後からは、神戸国際展示場で開催された「SSH（スーパーサイエンスハイスクール）生徒研究発表会」のポスターセッションに参加してきました。全国から集結した高校生たちが自らの課題研究を熱く語り合う、まさに高校科学界の最高峰の舞台の一つです。会場で受講生たちが最も心を打たれたのは、単なる実験データの羅列ではありませんでした。

「発表者がどうしても伝えたいほど、意味があり楽しい研究であること」がひしひしと伝わってくる、「研究を心から楽しむ姿勢」そのものでした。

合言葉：「聞いた後はお客さんにならない！」

バスの中で、稲田先生から、ただ発表を聞くだけの「見学者」で終わらないください。と話がありました。わからないことをそのままにせず、勇気を出して自分から質問や提案を投げかけてみようと思われた気分になったのではないのでしょうか。対話を通じてこそ、相手の研究も自分の学びも一段と深まりまるものです。以下に受講生の振り返りの記述をそのまま掲載します。高校生とのディスカッションを通して、受講生たちは本物の探究のエッセンスを次々と吸収できたのではないのでしょうか。

【受講生の声A】：一番楽しかったのは、若き高校生の研究者の発表を聞くだけでなく、沢山のディスカッションができたことです。発表者がどうしても伝えたいほど、意味があり楽しいことであることが伝わってきて、中学生の視点として様々な質問や提案をすることができました。独自の方法で価値を本気で追い求めている研究を深く知ることができ、この感動を二年目の自分なりのMM☆で表現したいです！

【受講生の声B】：僕が大切だと思ったことは『研究を楽しむ』ということです。発表していた人たちはたくさん大変な思いをしたはずなのに、あんなに笑顔で楽しそうに話せるのは、とても研究を楽しんでいたからだと思います。僕も研究を楽しんで、長く、深く探究できるようにしていきたいです。

【【受講生の声C】：『推しを語る』ように自分の興味を追求し、ポスターの見やすさや話し方を工夫して相手にわかりやすく伝える大切さがわかりました。観客にならず、自分から質問して本当によかったです！

